

回胴倒錯者

— PACHISLO FREAK —

疑義

あくろ朝出勤すると、誰もいないホールをぐるりと回ってみた。そこには確かに昨日仕掛けたトラップがあり、どこからどう見ても完璧だった。これを手で回して揃えたなどとは思はずがない。その出来栄えを再確認し、事務所に帰りいつもの開店作業に取り掛かった。その間に続々と従業員が出動してきて、ホールへ出て行っていたが、その8台揃ってベルが並んでいる異常事態には全く無関心なのか、気付いていないのか、私に尋ねてくるものは一人もいなかった。

朝礼をすませ、メインの出入り口へ向かう。ガラスドアの向こうには十数人の人影がうかがえる。腕時計をチラ見しながら開店のタイミングを見計らう。寸分の違いなく、丁度に開ける、これがいつもの儀式だ。何か特別な願掛けとかそういう類ではないが、性格がそうさせるのだ。鍵を開け、手で扉を開く、この日は特別大きなイベントも開催していなかったため、お客さんもまだだれ込むといったことはなく、かなり落ち着いた人場だった。まとまったお客さんの入場後、扉を手動モードから自動モードに切り替えながら、横目で鬼武者コーナーに向かう人物を見ていた。チラホラとそのコーナーへ入っていくものもいたが、外見からはその中に犯人がいるかどうかは判断できなかった。

事務所に戻り、鬼武者コーナーをズームする。そこには若者2人が話しながら打っている。その2台は昨日出ていた台だ。もし、この2人が犯人だとすると、昨日の好調台に座るわけがない。なぜなら、もし犯人だとすると、設定変更に気付くからである（実際は据え置きだが）。好調台を変更したとなれば基本的に設定は下げるだろうと容易に想像できるのだ。あえて設定を下げたつばい台には座らないはずである。

そんなことを考えているともう一人の若者が現れた。台を見渡している。こいつだ、こいつが犯人だ！それはすぐに分かった。その犯人は昨日一番出ていない台に着席した。千円札を投入し、メダルを投入。1ゲーム回したまま隣の台にもメダルを入れて1ゲーム回す。間違いない、これは確かにリールのブレを確認している。結局、最初に来た若者が座っている台以外をすべて1ゲーム回し、元の台に戻っていた。

この鬼武者という台は設定変更後の特典もある。256ゲーム以内のボーナス当選率はかなり高くなっているのだ。そういった意味でも朝一のリセット狙いの的にもされやすい。しかし今日は据え置きなので、それはない。はたしてこの犯人はいつ気付くだろうか。

基本通りこの犯人は250ゲームほどを回して次の台に移っていた。次の

台でもボーナスに当選することなく250ゲームは過ぎ去った。次の台に移るつもりだったのだろうが、すでに他の台は違うお客さんに回されてしまっていた。ここでこの犯人がとった行動は、元の台に戻るという事だった。高設定に変更したと予想したのだと思う。再度着席してから投資数千円でボーナスに当選。その後少し連チャンして早くも頭上のドル箱には半分ほどのメダルが積まれている。今この犯人はどう思っているのだろうか。やはり高設定と知っているのか？それとも頭の中は「？」だらけなのか。どちらにせよ、今のところやめる気配はない。

終礼

早番のみんなに終礼時に必ず今日の一件を言おうと思っていた。

「開店前に台のチェックをしますが、その時なにか気付かなかった？」

「……。」

「N君、なんか無かった？」

「えと、鬼武者ですか？」

「正解です、あれって普通ではないよね。気付いてない人のために言うのと、鬼武者にてリール上にベルが揃えてありました。しかも8台も並んで。」

「それがどうかしたんですか？」

他の従業員がこう聞いてきた。

「どうかしたかじゃなくて、普通ではないと思わない？」

「そういわれると確かに普通ではありませんが……」

「普通ではないことが問題であり、普通ではないからこそ何らかの意味があるのです。些細なことも疑問に思ってしまうことはありません。細かいところまで注意することが不正等の撤廃にもつながるのです。」

「はい、わかりました。ところで、ベルが並んでいるとなにかあるんですか？」

「設定の変更が見破れたりとか、まあそういった感じです」

実際、当ホールでは時折問題が生じていた。他店メダルの持ち込みとか、メダルの窃盗である。これまでの持ち込み最大枚数はなんと3千枚以上。3千枚を使おうと思ったらかなりの時間がかかる、それにも気付かなかったのだ。これは不

注意のレベルではなく、怠慢の域に値する。個々がもう少し目を光らせていればきつと防げたに違いないのだ。

後半戦

鬼武者の犯人は依然として同じ台を打っている。設定は、はつきり言って1である。しかし頭上には2箱が積まれており、3千枚は超えている。実際この機種は低設定でも高設定のそれを大きく上回るほど出ることがある。というか、設定6で出ないことが多い。先月号の設定6でも出ないランクにランクインさせるか迷ったほどだ。この犯人はどう思っているか？打っているかは不明であるが、少なくとも低設定ではないとは思っているだろう。この犯人の行く末も気になるが、自分の休憩時間まで削りたくないのだ、あとは閉店後のお楽しみとしよう。

閉店1時間前に再度ホールに到着した。さつそく事務所から犯人の様子をうかがうと、今まさにやめようとする瞬間だった。メダルは5千枚近く出ている様子だった。閉店1時間前まで粘ったという事はやはり高設定を確信していたのだらうか。この疑問が解けるのはそれから少し経った閉店後だった。

「店長、明日の設定はこれでよろしいですか？」

「いいんじゃない、別に」

新鬼武者

今回の本題でも主役となっていた鬼武者ですが、後継機の新鬼武者を打ってきたので、その感想を少し。4号機鬼武者も設定関係なし的な感じでしたが、これも結構ひどくないですか？

第1日目

設定判別要素である中段ベルをカウントしていたのですが、設定1を下回る確率で、最悪でした。しかし、RTが上乗せしまくって5千枚ほど出ました。中段ベルの確率が悪いためRT終了後に即ヤメ。

第2日目

通常時から中段ベルの確率が昨日とは正反対によく、それは設定6を上回るものでした。RTにもよく当選するし、ほぼ間違いなく高設定。短いRTやボーナスでだらだら下皿モード。いずれ噴くだろうと粘りに粘った結果、1500ゲームを超えるものがきて、終わってみればこの日も5千枚でした。

第3日目

この日も中段ベルが落ちまくりでまたまた高設定濃厚、ボーナスやRTも程よく当選し、メダル枚数は緩やかな右肩上がりの次関数でした。ただ、突如として、小役落ちが悪くなり（中段ベルは相変わらず良好）、興味本位で数えてみたら、400ゲーム間スイカ・チェリー無し！どーでもいいチェリーも出ませんでした。ついでにボーナスも、1000ゲームを超えて現金投資。この日は良好なベル確率とは裏腹に粘りに粘ってマイナス2千枚。

そうそう、第1日目に読者さんから「楽しみにしてます！」という励ましのお言葉をいただきました。こついう声援、とてもありがたいです。



新鬼武者（デオ）2010年3月
RTの上乗せには偏りがあって思いません
か？個人的に何かと偏る第1位です。

A氏プロフィール

三重県出身。三重の高校を卒業後、進学のため大阪へ。学業よりもパチスロに専念してしまいお決まりコースの大学中退。中退後3年間はパチスロで生計を立てる。その後サラリーマンになるも副収入はパチスロで。結婚のため三重に戻りホール店員となる。現在は知識と経験を生かし某店で設定師として手腕を振るっている。目押しレベルはスイカの種まで直視できるほどの異常っぷり。

